


2020年度 研究サマリー

研究会名称	CKD 啓発動画研究会による CKD 認知度向上に有効なインターネット動画製作とその効果の検討	
代表者所属	国際医療福祉大学病院 予防医学センター・腎臓内科	
代表者氏名	安藤 康 宏	
研究方法・結果	<p>1. RAV-CKD はCKD という病名の認知度向上を目的に、動画を用いた効果的なCKD 啓発方法を探って2010年9月より10年間活動を継続してきた。その蓄積として公開動画80本以上・動画再生総回数が2021年3月で27万5千回超という数字を達成しており、動画を用いたCKD 啓発において世界的に見ても最も活発かつ継続的にプロボノ※活動を行っている団体といえる。 (※専門技能によるボランティア；ラテン語pro bono publicoの略)</p> <p>2. 10年の継続的活動を通じてCKD 啓発動画のノウハウを蓄積し、演奏家コミュニティーや飲食業界など、医療界の外に広がるトランスディシプリナリーな支援ネットワークを拡大してきており、費用対効果に優れた動画制作と、国内に限らない多様なターゲットへのアプローチが可能となっている。</p> <p>3. 2020年度は新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生したために、昨年度のうちに予定し、すでに会場も予約していたCKD 啓発支援音楽コンサートや絵画展は開催見送りとなった。その一方CKD は新型コロナ感染症重症化の大きな危険因子でもあることが判明したことから、CKD啓発の必要性はむしろ高まったと言える。そこで電話、ビデオ電話などでの打ち合わせを重ねつつ音楽演奏家や医師仲間の支援をもとに啓発動画に活動を集中することとし、2020年秋～冬にかけて11本もの新作動画を制作・公開した。これらの新作の効果もあり、2020年の1年間の動画総再生回数は、2019年をやや上回る2万5千回となった。</p> <p>4. 2021年度以降は、引き続き啓発ツールとして有効な動画の製作を探索するとともに、COVID-19の収束～制御の状況を見つつ、CKD認知度該当アンケート調査やCKD啓発支援コンサートの再開を予定している</p>	
研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等）	<p>栃木県臓器移植推進協会だより30号（2021年2月22発行）に活動報告概要を掲載した。</p>	